

新千歳空港における深夜・早朝時間帯の運航に伴う経済効果を算出しました。
 ～発着枠拡大（6枠→30枠）に伴う経済効果は81億円～

- 平成27年に合意した発着枠拡大により、平成28年度は約81億円の経済効果が新たに生じました。
- また、平成28年度における深夜・早朝時間帯の運航(旅客便)に伴う経済効果は約175億円と推計されます。
- これは、東京都で開催された東京マラソン2017における東京都(開催地)の経済効果と同程度になります。

※ 東京マラソン2017 ～ 総出走者数35,824人、沿道観戦者数約151.2万人

【経済波及効果の積算方法】

- 経済波及効果を算出にあたっては、平成22年1月に発表した新千歳空港24時間運用に伴う経済波及効果調査（(株)北海道二十一世紀総合研究所）（以下「平成22年調査」という。）における経済波及効果の推計項目を活用しています。
- なお、本調査においては、平成22年の推計方法をもとに、当該年度の運航実績を踏まえ、算出しています。

| | H22年度 (調査) | H26年度 (拡大前) | H28年度 (拡大後) |
|------------------------------------|---------------|----------------|-------------------|
| 深夜・早朝便を利用して来道した道内旅行者の道内消費に伴う経済波及効果 | 42 億円 | 62 億円 | 116 億円 |
| 深夜・早朝便の運航に伴う関係事業者の事業活動に伴う経済波及効果 | 33 億円 | 32 億円 | 59 億円 |
| 合計 | 75 億円 | 94 億円 | 175 億円 (+81億円) |

※貨物便は、枠拡大前と同様であることから今回は積算しない。

<参考：推計項目>

| 項目 | H22年度 | H26年度 | H28年度 | H28/H22 |
|------|---|------------------------------|------------------------------|---------|
| 運航便数 | 2,190便/年 (365×6便) | 1,940便/年 | 3,777便/年 (運航実績) | 1.72 倍 |
| 利用者数 | 1便200人 ×搭乗率(60%) = 17.5万人 | 運航実績 ×搭乗率(実績) = 26.1万人 | 運航実績 ×搭乗率(実績) = 44.4万人 | 2.54 倍 |
| 消費単価 | 道観光局資料(北海道観光経済効果調査) H22(H26) 69,670円 → H28 73,132円 | | | 1.05 倍 |
| 波及係数 | 北海道開発局資料(北海道地域産業連関表) H22及びH26(H13資料) → H29(H23資料) | | | 1.00 倍 |